令和６年度　第３回勝山市総合行政審議会
議事録

日時：令和６年 11 月 22 日（木）１９：００～
場所：勝山市役所３階　第１会議室

１．開会
会長あいさつ

２．議事

（１）第２期勝山市地方創生総合戦略　進捗状況について
４つの「守る」防災減災・生活環境

政策目標１　自助・共助・公助の連携がとれた地域防災力の高いまち

№71　災害に対する準備および体制の強化

事前質問：「自主防災組織や民生委員と連携」とあるが、どこの地域でどのような連携があったのか。

総務課長：防災会議においてマニュアルの見直しを行っているところだが、避難所運営委員会を地域の中で組織して、職員や自主防災組織、民生委員などと連携していきたいと考えている。連携については、村岡地区において民生委員や消防団が防災士の資格を取得し、まちづくり会館が中心となって防災意識の向上に取り組んでいるので、市としても支援していきたいと考えている。他にも７月９日には、民生委員を対象に防災講座を開催し、自主防災組織の現状や災害における民生委員の役割について研修した。防災マップの研修や避難行動要支援者行動計画へ関わりたいという確認をした。今後も連携していきたい。

委員：個別支援避難計画について、件数はどれくらいあるか。

総務課長：令和５年は 1,427 件あった。指摘をいただいているとおり、避難経路の内容不備については認識している。村岡の件もあり、避難経路を意識した避難計画を立てていきたい。

事前意見：備蓄物資等を増加することに反対ではないが、より充実した備蓄につなげるために行政に依存しない体制づくり重要だと考える。

総務課長：ご指摘のとおり公助には限界がある。備蓄品は市が備蓄する量を明確に示し、その不足等は地域や家庭で考え、自分の身は自分で守るという自助共助を進めたい。現在 309 名が防災士の資格取得している。その方たちが中心となって、防災の意識向上を図っていきたい。

委員：連携があったことは分かった。個別支援計画は以前から言っているが、勝山市の個別支援計画は名簿を開示することに対して同意書をもらったことについて県から評価されているだけで、計画自体は計画になっていない。それを勘違いしないようにしてほしい。

№77　救急体制の充実

事前意見：「ビデオ通話 119」の広報について検討していただくとよい。

消防署長：救急体制の充実はさらに求められている。「ビデオ通話 119」を導入しているのは県内でも福井市消防局のみである。ビデオ通話 119 は映像を提供できるので、音声のみよりも効果的だと認識している。福井市や他市の状況を注視して検討していきたい。

№72　積雪時に安全で安心できる除排雪体制の確保

委員：道路の上部に張り出した雑木の始末について、降雪時期の前に市民に対して指導・啓発すべきではないか。

建設課長：おっしゃるとおり道路に張り出した枝があった場合は、それを避けて除雪している。あまりにひどい場合は個別に対応しているが、安全な道路を確保するために指導・啓発することは重要である。広報 12 月号で記事を掲載して周知したい。また次年度以降も継続して広報していく。

委員：広報紙だけではなく、区長会にも連絡してほしい。区長会を通じて啓発していただくと良いと思う。

政策目標２　安全で快適な生活環境が維持された住みやすいまち

№79　防犯体制の充実

事前質問：防犯カメラの設置について、助成の実績が上がらない理由をどのように分析しているか。

総務課長：令和４年度は４台、令和６年度は現時点で８台の助成をした。実績が上がらないのは、防犯カメラの設置費用や維持管理費がかかるためだと思われる。その点は、設置補助や警察の方でも補助があるので、区長会に出向いて説明し周知を行い、費用に関する懸念を払しょくしたい。他には、防犯カメラにより監視されている、プライバシーの侵害を感じているためだと思われる。防犯カメラの役割や安全確保を理解していただくような周知、撮影範囲を必要最小限にすることなどを助言して、警察関係者からも助言いただくなど、犯罪防止のための防犯カメラの設置について周知していきたい。

№81　交通安全対策の推進

事前意見：横断歩道の直前や事故が発生しやすい交差点付近に、速度を減速するための構造を設けてはどうか。

市民課長：横断歩道の直前の停止については、道路交通法でも停止の義務が定められてることを周知する必要がある。福井県では横断歩道での停止率が悪いという状況であるので、警察や関係機関と連携して周知に取り組んでいきたい。事故が発生しやすい交差点で速度を減速するための構造については、道路管理者と協議し、他市の状況を見ながら検討していきたい。

政策目標３　地球にやさしく環境意識が高いまち

意見なし

政策目標４　安心して快適に暮らせる都市基盤が維持されたまち

意見なし

（２）デジタル田園都市国家構想交付金等進捗状況について

№１　勝山温泉センター「水芭蕉」滞在型観光周遊拠点整備事業

委員：水芭蕉については、お湯の質が良くなったと感じるし、食堂や宿泊客が増えたと実感している。残念なのが、湯船に入って窓を見ると蜘蛛の巣がかかっているので掃除をしていただきたい。

商工文化課長：指定管理者にしっかり伝える。

委員：水芭蕉の来客数は前年対比だと思うが、これを見るとコロナ前以上の客数だと思われる。実際に年間どれくらい利用されているか。

商工文化課長：令和５年度で１２万人おり、令和６年度は現時点で５％増くらいで進んでいる。売り上げも７％増できている。

委員：たしかに見た印象では宿泊客が確実に増えている。

商工文化課長：宿泊客は昨年で約 4,600 人。今は予約もほぼいっぱいで泊まれないとも聞いている。

委員：宿泊客の多くは県外からか。

委員：県外ナンバーの車から大きな荷物を持って降りてきているので、おそらく県外からの恐竜博物館のお客さんだと思う。

№2　ICT 技術とマイナンバーを活用した窓口手続きの迅速化による住民サービスの向上事業

意見なし

№3　ICT 技術を活用した生活環境の保全による住民サービスの向上事業

委員：区長会には市からの配布物が非常に多く、区民への配布物も多い。市報のデジタル化やデジタル広報などの導入は検討されているか。また、市が導入したシステムを地区が使用でき、区民への配布物をデジタル化できると利便性が上がり良いと思うが、いかがか。

事務局：ゆくゆくは目指していきたいところである。導入に関しては各家庭に端末が必要になると思うが、機器のメンテナンスや高齢者が対応できるかが課題である。スマートフォン普及率はかなり高くなったといっても今の勝山の現状では難しいと考える。導入した自治体を研究して、導入について検討していきたい。

委員：デジタル格差があるのは現状だと思う。町内会長をやっていても、配布物に苦労する。スマートフォンを持っていない人もいるので、このデジタル格差をどのように容認して検討していただく必要があると思う。

№4　デジタル技術を活用した上下水道料金のコンビニ収納による住民サービスの向上事業

委員：税金についてもコンビニ収納ができるのか。

事務局：税金は上下水道料金よりも早くコンビニ収納に対応した。ただ、介護保険料だけが対応できていない状況である。

委員：コンビニ収納については、例えば離れた自治体の納付書でも近くのコンビニで支払うことができ、本当に便利だと思う。

№5　勝山づくり人創造推進事業

意見なし

（3）みんなが活躍できるまちかつやまプラン（男女共同参画及び多様な性を尊重する社会づくり推進計画）について

委員：有給休暇取得率が上がらないのはなぜか。

事務局：特別休暇が充足しているのと、振替休暇を消化しきれず、年次有給休暇の取得に至らないということがあると考える。

委員：民間企業では、年次有給休暇の取得率も賞与の査定項目に入っているところもある。

目標に到達しないものについては賞与に影響したり、強制的に取得させるようにすることが必要。また5日間の計画有休の取得は推奨できるので、そこから取り組んではどうか。

委員：女性防災士を30%にするという目標は分かりやすいが、実質活動している防災士の中から女性防災士を増やしてほしい。防災士の資格を取得しただけという人が多いので、少しでも良いので活動している人の実態を把握してほしい。避難所運営には女性の目線が絶対に必要である。女性がいなかったら避難所は悲惨な状況になる。

委員：「男は仕事、女は家庭」という考え方の非肯定的な意識がここまで進んだのはすごいこと。意識のところはなかなか進んでいくことではない。ぜひ息の長い取組みをしてほしい。県が実施する「共家事の日」は10年以上取り組んで、ようやく少し進んできている。粘り強く続けていくことが重要である。

委員：審議会の女性登用率については、専門性の高いものは仕方ないが、あて職については法律で定めらているわけではない。公募の委員を増やして取組みをしていく必要があると思う。待っていても増えてはいかないので、いろいろ仕組みを作って、働きかけていく必要がある。

事務局：意識については継続していくことが重要だと思っている。市の審議会の委員構成については、区の代表が多いが、法律で定めているわけではないので女性が参加しやすい枠を考えていきたい。

３．閉会